

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 6 日現在

機関番号：16201

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23653189

研究課題名(和文)生涯教育におけるESP教授法の開発 - 直島観光ガイド英語研修の実践を通して

研究課題名(英文)Development of ESP Teaching Method in Life-long Education

研究代表者

水野 康一 (Mizuno, Koichi)

香川大学・経済学部・教授

研究者番号：20243751

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円、(間接経費) 720,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、成人の英語学習における動機づけについて研究したものである。特に高齢者が生涯学習として英語を学ぶことを促進させる因子の探索を目的としていた。研究代表者自身によるアクションリサーチの形で、約2年半の期間にわたり、80回以上もの英語講座を地域住民に対して実施した。アンケート調査等の結果、英語学習には観光ガイドなど実用的な目的よりも教養的な価値が強く求められていること、またこの講座を通じて仲間づくりをしたいという希望が強いことがわかった。学習動機については、因子分析、テキストマイニングにより分析を試みたが、一般化可能な強い結論は得られなかった。

研究成果の概要(英文)：This study tried to identify the motivational factors that facilitate adult learners' English language learning. More than 80 sessions of teaching were carried out by the researcher using the action research method. The data collected were analyzed statistically, but no strong factor has been extracted. The failure in the study is due to the limited number of participants who have totally different motivations and attitudes toward learning English. Although generalization was impossible, but many intuitive insights have been gained from this study.

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育社会学

キーワード：生涯教育 学習動機

### 1. 研究開始当初の背景

本研究代表者はかつて香川県直島町のボランティアガイドに道案内等の簡単な英語を講習会という形で教えた経験がある。その際の受講者のほとんどは高齢者で、非常に意欲的に英語学習に取り組んでいた。このような成人、特に高齢者の英語学習動機づけについて学術的な研究は数が少ないため、本研究を実施することにした。

### 2. 研究の目的

本研究は、高齢化社会における生涯教育としての英語教育の可能性を探るべく、成年後期以降の外国語習得プロセスに寄与する諸要因についての数量的データを得ることを目的として、実践的調査研究を行うものである。

### 3. 研究の方法

研究者本人が教育実践者となるアクションリサーチを行った。地域住民に対する生涯学習講座という形で、約2年半の期間にわたり、80回以上のセッションを実施した。講座の記録、参加者への個別インタビュー、英語学力テスト、動機づけに関するアンケート調査を定期的に行い。データについては、テキストマイニングおよび因子分析を行った。

### 4. 研究成果

#### (1) 教育実践

上記(1. 研究開始当初の背景)に記載した通り、当初は外国人旅行者に対する接遇やガイドのためのESP(特別な目的のための英語)の教授を目的としていたが、事情により、一般教養的な英語を教えることに方針転換せざるを得なくなった。事情の一つは、英語講座の最も高齢の参加者でありながら、地域において熱心にボランティアガイドをしていた男性で、今回のグループのキーパーソンと目された人物が逝去したことである。この研究はまさに彼のような動機づけの高い高齢者の英語学習の長期的な記録を必要とするため、研究の方向性に大きな影響が出てしまった。もう一つの事情は、初期のアンケート調査の結果、観光ガイドのような実用的な英語(または英会話)よりも教養的な英語学習を望む学習者が多いことが判明したことである。計画通り、観光ガイドのための英語講習では、長期にわたり参加者の学習動機づけを維持することが、困難と判断された。

このことから、主として映画の SCRIPT(台本)を教材に、映像を見ながら英語を学んでいくという活動が主たる教育実践となった。しかし、この講座は参加者に非常に好評で、当初10名程度でスタートしたが、その参加者のほとんどが最後まで学習を継続し、また受講者に勧誘された新たな参加者が加わることにより、最終的には受講者が20名近くまで増えた。毎回の参加者は平均10名(4~16名)であるが、計80回以上、

のべ160時間以上に及び英語講座の開講は、毎回参加されている人にとっては、意味のある英語学習の機会であり、また、大学の地域貢献活動としても意義が大きかった。

取り上げた映画(ドラマ)は、『プリティ・ウーマン』、『ワーキング・ガール』、『卒業』、『ローマの休日』、『サウンド・オブ・ミュージック』、『デーブ』、『マトリクス』、『エレン・プロコピッチ』、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』、『フレンズ』、『デスパレートな妻たち』である。長期間にわたり学習者の参加意欲が持続させるため、参加者が興味を持てる、多様なジャンルの映画(ドラマ)を選択した。同様の目的から、講座の進め方も、講師がスクリプトの内容を解説するだけでなく、リラックスした雰囲気の中で受講者が自由に質問や発言ができるよう心掛けた。参加者はこれまでの長い人生の中で多くの経験や知識を積み重ねており、それらは作品の中に見られる生活習慣、文化背景、歴史の理解に大いに活用されている。なお、本講座は、研究期間終了後の現在も継続されている。

#### (2) 調査対象者(受講生)

研究開始当初の参加は10名(女性9名、男性1名)、年齢層は30歳代から70歳代までと幅が広いものの、60歳代が中心メンバーであった。継続的に参加されたのは仕事を退職者や専業主婦であり、有職者や子育て中の方の参加率は低かった。大学の生涯学習講座の参加者に呼びかけたり、講座の参加者が友人を誘ったりして、参加者は徐々に増えていき、最終的な参加者は19名(女性14名、男性5名)となった。

#### (3) 参加動機

受講生の当初の参加動機について、アンケート(自由記述)調査を実施した。あわせて経歴(職歴、英語学習歴)や生活背景(仕事内容、家族構成)、および趣味や興味関心についてインタビュー調査を行った。

参加者の学習動機やプロフィールは多様であったが、おおよそ共通していたのは、以下の3点である。

かつて大学等で英語を勉強した、あるいは仕事で英語を使っていた、英語圏に滞在していたことがある等、英語に対する関心興味が存在する。

退職や子供が独立した後で時間がある。単身生活者あるいは家族は少ない傾向がみられる。

活動的かつ社会的であり、日常的に外出することを好む。または、身体的な事情で自宅に籠りがちなので、機会があれば敢えて積極的に外出を心がけている。

他にも映画鑑賞が好き、高校受験を控えた子供に親も勉強している姿を見せたいなどといった、参加動機も聞かれた。

以上のように、継続的な講座参加は、純粋な英語学習意欲だけでなく、受講者の様々な

個人的な事情による動機づけに支えられていることが判明した。

#### (4) 学習動機調査

参加者に対して、学習動機アンケートを実施した。33の文章について、自分の感じ方を「そう思う」から「そう思わない」まで五段階の回答するものであった(リカートスケール)。質問項目の半数にも満たないサンプル数であったため、厳密には因子分析結果の信頼性は低い、因子負荷量により項目を分類すると以下のとおりであった。

##### 知的好奇心

「好奇心旺盛な方だ」  
「生涯学習に積極的に取り組んでいる」  
「英語を話せるようになりたい」  
「趣味は多いほうだ」  
「英語を学ぶことは好きだ」  
「海外旅行がしたい」  
「外国の文化や生活を知りたい」  
「海外のニュースに関心を持っている」  
「国内の社会問題に関心がある」  
「ドラマ、小説などフィクションが好きだ」  
「ドキュメンタリー番組を見るのが好きだ」  
「映画を観賞することが好きだ」  
「英語を使って外国人と交流したい」

##### 自己実現・自己効力感

「努力の成果が実感できるとうれしい」  
「QOL(生活の質)を高めたい」  
「自分一人だけの時間も重要だ」  
「自分は無力だと感じることが多い」

##### 対人志向・社交性

「友人・知人は多い方だ」  
「友人・知人との交流は楽しい」  
「家にいるより外出する方が好きだ」  
「他人に配慮して行動に移せないことがある」

##### 社会貢献

「社会に貢献・奉仕したい」  
「他人の役に立ちたいと考えている」  
「日本の良さを海外の人に知ってもらいたい」

##### その他

「経済的な余裕がないと感じる」  
「自分の健康に不安がある」  
「家族は自分を理解してくれる」  
「いつも時間がないと感じている」

サンプル数の少なさから、英語学習動機づけを一般的な好奇心と分類することができなかった。英語に限らず、物事に対する関心が高い。また、参加者は自己効力感を強く求めている。全体的には社会的で、社会貢献については、反応が分かれた。

#### (5) 教育実践の効果

2年半にわたる英語教育活動が参加者に様々な変化をもたらしている。ある参加者は英語検定の受験を志し、3級合格を果たしている。英語の生涯学習講座に参加する人、海外旅行も出かける人も増えている。講座終了

後の昼食会など受講者グループ内の交流活動も積極的に行われており、昨年は台湾懇親旅行が実現された。アンケートや聞き取り調査では、講座に参加するようになって、生活が充実していると多くの参加者が述べている。以下、そのような参加者の声をアンケート回答から引用し、今回の研究実践の成果の裏付けとする。

「私はこのクラスをこよなく愛しています。とりわけ最近サロン化していて一人一人が自由に発言し、またその発言がほかの皆さんに興味を持って吸収されています。そういう意味で刺激的なクラスです。私自身は和文英訳の仕事をしたことがあり、醍醐味と難しさを感じます。それで文法に非常にこだわります。でも今のクラスのように英語圏社会の細かなことを、シナリオから探っていくのも大変面白く感じます。」

「講座開始からラジオ講座を始め、現在も続けています。英語講座の一番の収穫は、グループの人達から触発されることが多々あるということです。お互い利害関係なく討論(おしゃべり)できる時間があって気持ちの良い解放感があります。英語や映画に関係なくても話が飛び交い、私自身の興味の範囲がとて広がっていきました。海外の出来事にも目が向き、TVでワールドニュースを見たり、またことばについてもこだわりを持つようになりました。辞書をよく引くようになりました。生来、悩むタイプでしたが、限られた時間を有効に使いたいと思い、悩みをわきに置けるようになりました。めざす英語力アップはまだまだです。」

「長年東京にて外資系企業に勤務していましたが、親の介護のためリターンしました。英語レベルアップのため、何か良い環境がないかと探していたところ、公開講座尾を知り参加しました。米国の社会、文化の理解という点でいろいろなヒントを講座の中で得られ感謝しています。」

「独りの生活になって10年と少したち、生かされていること喜びを感じています。でも元気で動けるのはあとどれくらいかなと思うようになりました。(中略)そんな状況にあっても、若いころより興味の範囲は限られていますが、見るもの、聞くもの、何でも知りたい、行ってみたいという好奇心があって今でも何かしらの不思議に出会って驚かされたり感激したりしております。」

「土曜午前の2時間は大変楽しいです。日米、日英、日ニュージーランド等、英語圏との比較文化論を聞くことができ、この文化論が、私の浅学を知らしめた次第です。しかし、知識として身につけていなかったことが、人生 epilogue にさしかかって新たな知を得るこ

とができるのはうれしい限りです。」

「この英語講座に参加することにより、定期的に英語に触れることができ、いい刺激になり、他の講座等（放送大学、TV・ラジオ等の講座、英語版の絵本）に参加する意欲につながっている。他の講座はどうしても文法中心、勉強的要素が強く、楽しめない。映画も好きなので、映画を楽しみながら、その時代背景、先生や会員の方々体験した生きた英語に触れることができました。映画はヒヤリングのいい教材になると思います。まだまだ英語はわかりませんが…。会員の方々との交流も深まり、楽しいです。」

「英語講座に参加してこんな自分を見つけました。一昨年英語を話す society にはいつでも、少しも臆することがなかったことです。それは映画を通して、たくさんのセリフや、よく使う言い回し、バックグラウンド、その国の文化、文法等を毎週先生から浴びるように教わっているからです。まるでその国にいるかのような心地よい錯覚に落ち入っていますし、映画に自分も出ているような気持で講座を受けています。週に1知殿この時間はとても大切に思っています。みんなの変わった質問も好きです。先生がそれを面白く展開して下さるのも楽しみです。またそのうちアメリカへ行きます。今後はもっと知識をもって異文化を吸収して行きたいと思っています。」

「正式な英語学習は全然受けていませんので、解りかねることもあります。字引を引くだけでも学生時代を思い出してきます。また息子たちの字引が役立っているので親子の絆もわいてきて幸せも感じます。英語学習は私の人生を豊かにしてもらっています。」

「先生の熱心で懇切丁寧な講義には毎回得るところがあります。熱心な女性の会員が多く、また海外経験者もおり、和気藹藹の雰囲気の中で英語を学べることはありがたく、すばらしいことです。質問から時々脱線したり、話が盛り上がることもあるのも、また楽しからずやである。映画で英語を学べるメリットは一石三鳥の価値があると言ってもよいと思っています。私は予習よりも復習を大切にしており、講座の帰りに市立図書館に立ち寄って大辞典（ジーニアス英和）で調べ、ノートにメモすることにしています。これからこの英語教室が続く限り、参加させていただきたいと思っています。」

「教材について

・映画が好きなので、映画（ドラマ含む）を教材にすることにより、英語学習が楽しくできた。英語原文（脚本）を学ぶことにより、その映画に対する新しい見方やより深い理

解があった。

・私には、映像、ビジュアルの情報が、本などより直接的で効果的であることもわかった。

・映画を見た本数は学習会のメンバー内でも多いという自負もあり、その情報を提供することで、会の中でなにか役割を果たしているように感じた。

・これまでの英語学習のような「苦勞して頑張る」といった感覚がほとんどなく、予習、復習も日課のようにできたし、その時間が楽しい。

・テキストのある事柄だけでなく、関連したものも自分の興味で調べたくなり、興味の幅も広がった。

学習会への参加を通じて変わったこと

・これまで、点として自分の持っていた知識が、学習会で得た知識で線となり「つながる」感覚を味わった。

・これまでもよく生涯学習関連の講座に出席してきたが、単発ものではその場限りが多く、何か疑問があれば講座終了後に直接講師に質問することが多く、クラス内で発言することはあまりなかった。しかし、学習会では長期にわたり、気心も知れ発言しやすい雰囲気もあり、積極的に発言できるようになった。また、前述のようにテーマが映画であり、エンタメ情報は持っているの、それを披露するが楽しい。

・予習し調べたことを学習会の場で発言することで、インプットしたものをアウトプットする形となり、記憶にも残りやすい。

・一人で学習するより、集団（仲間）で学習する楽しさも感じた。

生涯学習について

・好奇心、その好奇心（謎）を解き明かしたい、学びたいという気持ちが一番大切な気がした。

・集団での学びも有効。

様々な世代が集まっていれば、多様な考えを知り、知識の幅も広がる。会の仲間に恵まれること、その会の中で各自が何か役割を果たすこと（役員になるというような組織的なことではなく、自分の知識を提供するような）参加人数は小規模で、自由に発言できる雰囲気であり、お互いに刺激し合えることが望ましい。

・自分の関心のあるもの、好きなものに関連させて学ぶのが長続きするコツのような気がする。

・自分なりに目標設定することも必要だと思う。」

「教材が映画なので、興味が続き、勉強が楽しい（勉強という堅苦しさを感ぜない）。先生も豊富な知識を伝授いただき、仲間の皆さんも熱心で、英語だけでなくいろいろな話題で盛り上がり、面白い。学習会では毎回何かしら得るものがあり、知的好奇心が満足させられる。英語力については、実のところ依然

と比べ、アップした気はしないが、会の中で学んだフレーズなどは映画やドラマなどで使われていれば聞き取れるようになった。

楽しい勉強の機会に巡り合えてありがたいと思う。単なるエンターテインメントとしてとらえていた映画を英語学習のツールとして活用した新しい取り組みに夢中になった。参加者は背景も様々で、違った意見を聞くのは興味深い。今まで参加していた生涯学習講座では講義を聞くだけの一方通行が多かったが、学習会では自由に発言し、時には自分の知識、情報を披露し、求めてもらえる。また課外活動（忘年会、カラオケなど）も楽しく、参加者との『つながり』も感じる。」

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

#### 6. 研究組織

##### (1)研究代表者

水野 康一 (MIZUNO Koichi)

香川大学・経済学部・教授

研究者番号：20243751

##### (2)研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3)連携研究者

( )

研究者番号：